

ピアノ レビュー

Piano Review

3

アップライトよりグランド?

グランドピアノの方が楽器としての性能が高いことは確実です。その根拠については楽器メーカーのホームページなどで詳しく紹介されていますので詳しくは書きません。このコラムはアップライトピアノの価値を再確認することを目的にしたいと思います。

アップライトピアノを選ぶメリットはスペースが節約できること、安価であること、そしてアップライトピアノならではの名品が選べるということです。スペースの問題は日本のような住環境では切実で、国産メーカーのアップライトモデルの充実ぶりもこれを反映するものだと思います。最近ではデザインが洗練されたものが用意され、いまだ真っ黒のものがほとんどであるグランドより、この方面での選択の幅が出てきています。

価格差については、特にヨーロッパのピアノについては非常に顕著です。例えばスタインウェイのアップライトモデルは400万円弱。一般的な国産のグランドピアノの価格を超える高価な品ですが、同社

のグランドピアノに比べるとおよそ半額です。私が試弾したK型は状態が良かったと思いますが、低音の迫力はグランドのO型(奥行き180cm)に劣り

ませんでした。これは弦の長さが構造上O型と同程度であるからだと思います。またアップライトピアノの製造を得意とするメーカーの存在は特に強調したいところですが、スタインウェイ、ベーゼンドルファーの2大メーカーがアップライト製造にかけられる手間や作りこみはグランドにかけられる力とまったく同等と思えます。どちらも素晴らしい楽器です。他に私が感銘を受けたアップライトピアノとしては国産ではアポロ、ヨーロッパではザウター、プレイエル、ベヒシュタイン、シュタイングレーバー、グロトリアンなどを挙げることができます。特に最後の3つに関しては、気品ある音や、音色を作りだそうとする際の操作性、モデルによっては音量についても、平凡な出来のグランドを大きく超えることがあります。比較的安価な前3者についても独自の機構や音の個性には強く惹かれました。今年発表されたヤマハのSU7も高品質を感じさせるものでした。

スタインウェイやベーゼンドルファーはかなり高価ですが、その他のメーカーのアップライトには国産のグランドピアノと同程度、あるいは下回る価格帯のものもあります。例えば同音連打が頻出する近・現代曲を相当のスピードで弾くことを目的とする方にアップライトピアノは勧められません。しかし速く正確に弾くことを主目的としないのであれば、検討範囲にお入れになることをお勧めします。音楽を深く表現するのに十分な能力を持つアップライトは沢山あります。



▲ベヒシュタイン
アップライトモデル